

2014(平成26)年度 法学既修者入学試験問題(8月試験)

# 民法

(120分, 総点150点)

**試験開始の指示があるまで開かないこと**

## 注意

1. 問題冊子は、表紙を含めて4ページで、問題は3問ある。
2. 解答用紙は3枚配布する。解答は解答用紙に記入し、解答の末尾には、「以上」と明記すること。また、用紙が不足した場合には、追加の用紙を配布するので、挙手して監督者に知らせること。
3. 下書き用紙として、白紙を1枚配布する。ただし、下書き用紙の提出は認めないので、必ず解答用紙に清書して提出すること。
4. 解答用紙への受験番号、氏名記入は、監督者の指示によること。また、「管理番号」欄は、大学側が使用するので受験生は記入しないこと。
5. 問題の内容に関する質問には、応じない。
6. 試験時間内の退場はできない。なお、試験中の発病等やむを得ない場合には、挙手により監督者に知らせ、その指示に従うこと。
7. 試験終了後は、監督者の指示があるまで、各自の席で待機すること。
8. 問題冊子及び下書き用紙は、各自で持ち帰ること。

第1問

A所有の甲土地に、土木建設用資材の卸売業者Bが、Aに無断でプレハブの倉庫を建築し、商品であるセメントや鉄筋等の保管倉庫として使用していた。以下の問いに理由を付して答えなさい。

- (1) Aはそのままの状態であつて甲土地をCに売却して所有権が移転したが、登記はまだである。CがBに対して、土地所有権にもつづいて倉庫の取去と土地の明渡を請求したところ、Bは、Cが未登記であることを理由にそれを拒んでいる。Bの主張は認められるか。

(10点)

- (2) その後、Aの夫Dは、登記名義がAのままであるのを奇貨として、委任状等を偽造し、Aの代理人と称して甲土地をAに無断でEに売却して、代金を受け取り、移転登記が行われた。(1)のCが、Eに対して、移転登記の抹消登記請求をしている。この請求は認められるだろうか。

(20点)

- (3) Bは明渡をしないままに、Fに対して負っている貸金債務の担保として、この倉庫内にある商品の建築資材の上に、種類及び数量を特定したうえで流動動産譲渡担保を設定し、占有改定による引渡しを行った。その後、Bは事業の資金繰りに困り、この倉庫内にある商品すべてを一括して時価の1/2でGに売却し、搬出して引き渡した。Fは譲渡担保権者の立場にもつづいてその商品を返還するようGに請求している。Fの請求は認められるだろうか。

(20点)

## 第2問

A美容院は、S化粧品会社と契約し、その製造した化粧品を永年にわたり業務用に使用してきたが、顧客B、Cらに行った養毛施術により、B、Cらの髪が茶色に変色し、頭皮に湿疹が出るという後遺症が生じてしまった。Aがその原因を調べたところ、Sが新たに開発し、製造・販売したPという商品名の養毛剤にその原因のあることが判明した。

- (1) B、CらがAに対して損害賠償請求をする場合に、どのような法的根拠によることができるか。 (10点)
  
- (2) B、CらがSに対して損害賠償請求をする場合に、どのような法的根拠によることができるか。 (20点)
  
- (3) Aは、Sの製品が原因で顧客に障害を負わせる結果となり、そのために自己の美容院の顧客減少という損害を被ったため、その損害賠償の支払いをSに対して求めたい。Aは、どのような法的構成によって請求していくべきであるか。 (20点)

### 第3問

A男とB女は、結婚式を挙げて、3年間、実質上夫婦としての同棲生活を送ってきたが、婚姻届は出していない。以下の問いに理由を付して答えなさい。

- (1) 内縁関係の存続中に子Cが生まれたが、Aは認知をしようとしなない。Cは、どのような方法でAの認知を求めることができるか。また、その場合に、内縁夫婦の間に生まれた子であることに配慮して、それ以外の婚姻外の男女の間に生まれた子とは異なる取り扱いをする余地はあるだろうか。 (20点)
- (2) (1)と異なり、AB間には子供ができなかったとする。Aは交通事故に遭って重傷を負い、入院先の病院で死亡した。死亡の1週間前に、Aは、自分の死期が近く、Bと夫婦としての共同生活を続ける余地がもはや残されていないことを認識しつつ、自分の遺産をBに相続させることを目的として、Bと共に婚姻届を作成・提出して受理された。Aの死後、Bは法定相続人として相当の財産を相続することになったが、Aの推定相続人であるAの父Dが、Aには夫婦共同生活から生じるべき婚姻の基本的効果を生じさせようとする婚姻意思がなかったとして婚姻の無効を主張している。Dの主張を認めるべきだろうか。 (30点)